

Green-FPで中小企業のGXをスピードアップ！

～グリーンファイナンスの専門人材拡大への提案～

常磐大学総合政策学部経営学科

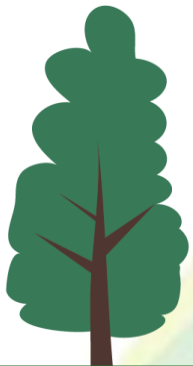
中根愛莉

中山優華

茅場七彩

須藤麻未

斎藤穂乃佳



目次

01

気候変動の現状とGXについて

02

グリーンファイナンスの手法と市場規模

03

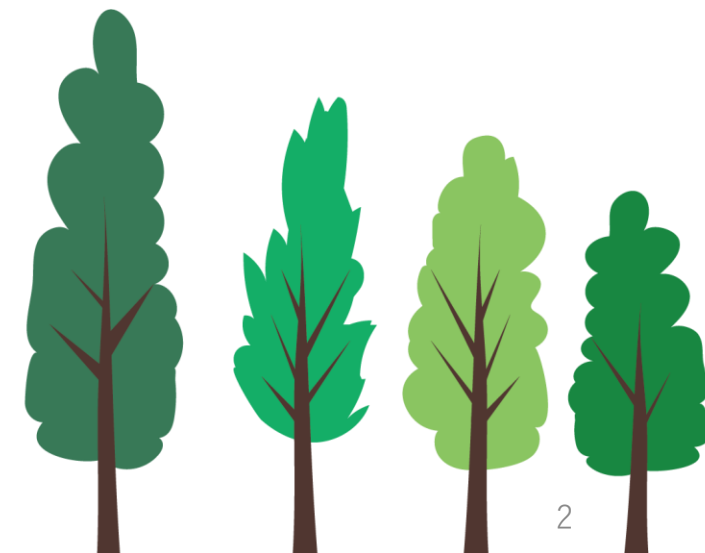
ヒアリング調査とその結果

04

私たちの提案「Green-FP制度」

05

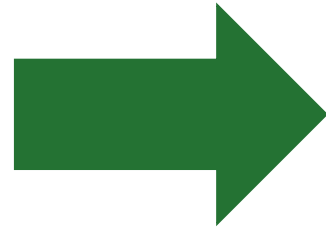
Green-FP制度で目指す未来



01

気候変動の現状とGXについて

産業革命以前



現在



1.1°C上昇

このまま温暖化が
進んだらどうなるの？

猛暑による死亡増加、食料と水の不安定化などの
リスク拡大が予想される。

GX
(グリーントランスフォーメーション)
を強力に推進する必要がある！



環境省



2030年度
温室効果ガス**46%削減**
(2013年度比)
を目指します！

しかし
2019年度時点で
19%削減にとどまる

そこで注目されるのが
グリーンファイナンス



02

グリーンファイナンスの 手法と市場規模

グリーンファイナンス

環境に良い効果を与える投資への
ファイナンス



空気や水・土
の汚染除去

自然資源
の活用

気候変動の
緩和と適応

温室効果ガス
排出量削減

エネルギー
効率改善

グリーンファイナンスの手法は2つ

グリーンローン
(グリーンボンド)

 国内外の
グリーンプロジェクトに
要する資金を調達する

サステナビリティ・リンク・ローン
(サステナビリティ・リンク・ボンド)

借り手が野心的なSPTsを
達成することを奨励する

グリーンプロジェクトの種類

- ①再生可能エネルギーに関する事業
- ②省エネルギーに関する事業
- ③汚染の防止と管理に関する事業
- ④自然資源・土地利用の持続可能な管理に関する事業
- ⑤生物多様性保全に関する事業
- ⑥クリーンな運輸に関する事業
- ⑦持続可能な水資源管理に関する事業
- ⑧気候変動に対する適応に関する事業
- ⑨サーキュラーエコノミーに対応した製品、
製造技術・プロセス、環境配慮製品に関する事業
- ⑩グリーンビルディングに関する事業

グリーン
プロジェクトの
種類は幅広い

02

グリーンファイナンスの手法と市場規模

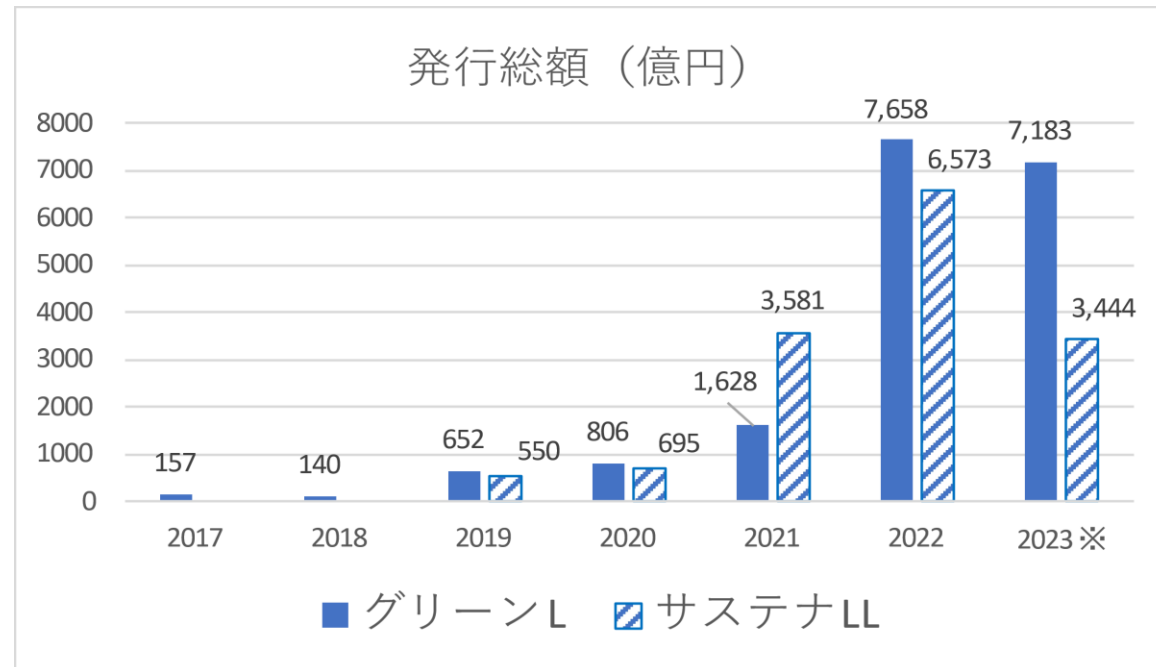
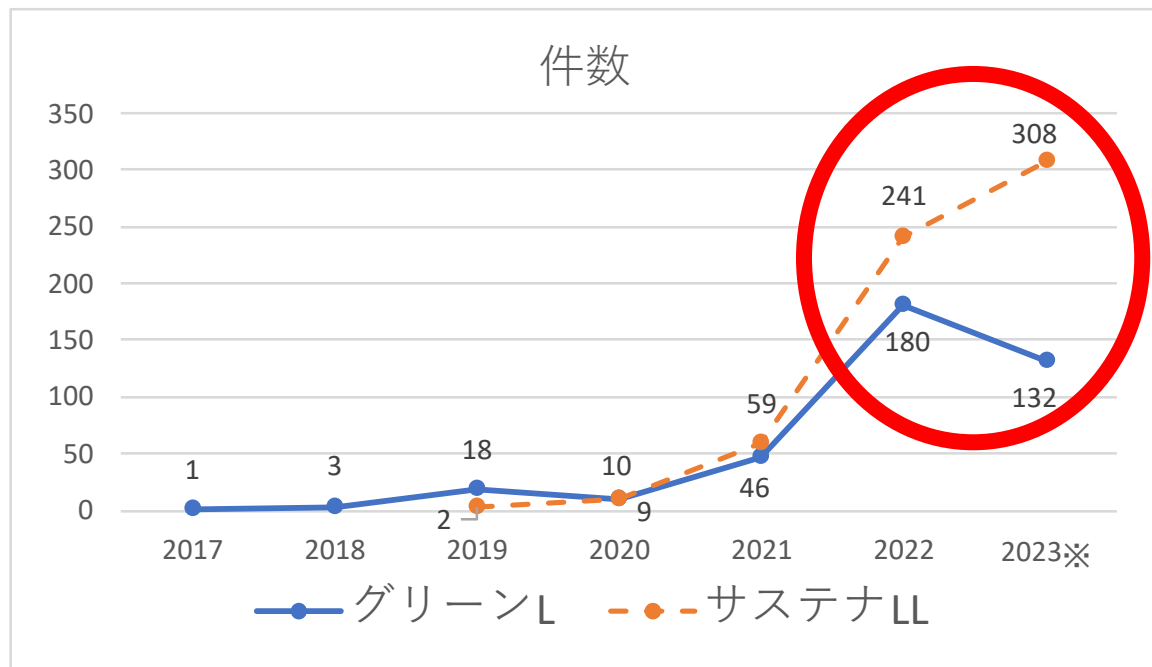
	資金用途の限定	サステナビリティ改善度 と貸出金利等の連動	透明性の確保	資金の追跡管理
グリーン ローン	特定のグリーン プロジェクトに 限定される	連動しない	融資後の レポーティング を通じ透明性が 確保される	確実に 追跡管理される
サステナビリティ リンクローン	特定の プロジェクトに 限定されない	サステナビリティに関する 野心的な業績 目標 (SPTs)の改善度合と 貸出金利等が連動する	融資後の レポーティング を通じ透明性が 確保される	必ずしも 追跡管理 されない

出所) 環境省「グリーンファイナンスポータル」 「グリーンローン及びサステナビリティ・リンク・ローンガイドライン2022年版」より作成

02

グリーンファイナンスの手法と市場規模

グリーンファイナンスの件数と金額



(注) 2023年は9月4日時点の値

(出所) 環境省「グリーンファイナンスポータル」より作成

**グリーンLもサステナLLも急増しているが
年間100～300件程度**

しかし

- ① 全国約368万社ある企業のうちのごくわずか
- ② 日本の経済は多くの中小企業が支えている
- ③ 地方経済の主役は中小企業

大企業だけではなく**中小企業も**
GXに積極的に関わる形で
グリーンファイナンスを発展させる



03

ヒアリング調査とその結果

実態を知るべく
格付機関（1社） 地方銀行（2行）に
ヒアリング調査



03

ヒアリング調査とその結果

格付機関へのヒアリング調査

調査目的…格付機関から見たグリーンファイナンスの実状調査

調査対象…東京に本店のある格付機関1社

調査日時…2023年8月18日（金）9：30～11：10

調査方法…事前に送付した質問をもとに、当日対面にて回答していただいた。

地方銀行2行へのヒアリング調査

調査目的…金融機関から見たグリーンファイナンスの実状調査

調査対象…関東に本店のあるA銀行及びB銀行

調査日時…2023年9月8日（金）9：30～10：30、同12日（火）13：00～13：50

調査方法…事前に送付した質問をもとに、当日対面にて回答していただいた。

1. グリーンファイナンス利用企業（中小企業）の実状

対外的なPR
ブランドイメージ
獲得

金銭的コストは
それほど
負担ではない

グリーンLは少数、
サステナLLが大多
数



対外的イメージ獲得の手段として利用
資金使途を事前に具体的に計画しているわけではない

2. 金融機関（主に地方銀行）の実状

気候変動対応オペ
は有用な制度
→積極的に活用

多様なサポートで
プロジェクトや
目標達成に協力

専門人材は少ない
ニーズ増加に伴う
育成体制は不十分

実際の声

A銀行

- ①グリーンLを扱う専門人材は1人、兼任は多数
- ②環境研究所と連携を検討中
- ③ニーズの増加に伴い専門部署の設置・拡充が必要

B銀行

- ①専属は0名で兼務は4名（2部署に跨る）
- ②グリーン担当者は格付機関に1年間出向経験
- ③目標達成状況により専門部署の設置や拡充を検討

2. 金融機関（主に地方銀行）の実状

気候変動対応オペ
は有用な制度
→積極的に活用

多様なサポートで
プロジェクトや
目標達成に協力

専門人材は少ない
ニーズ増加に伴う
育成体制は不十分



グリーンファイナンスを積極的に推進する姿勢はあるが
それを行う人材は非常に不足し、**社内の育成体制も確立していない。**

私たちの提案

グリーン・ファイナンシャル・プランナー
(Green-FP)



04

私たちの提案 「Green-FP制度」

Green-FPとは

各企業に合った
環境面の取り組みについて
具体的な提案ができる
知識・能力を持つ専門家



狙い

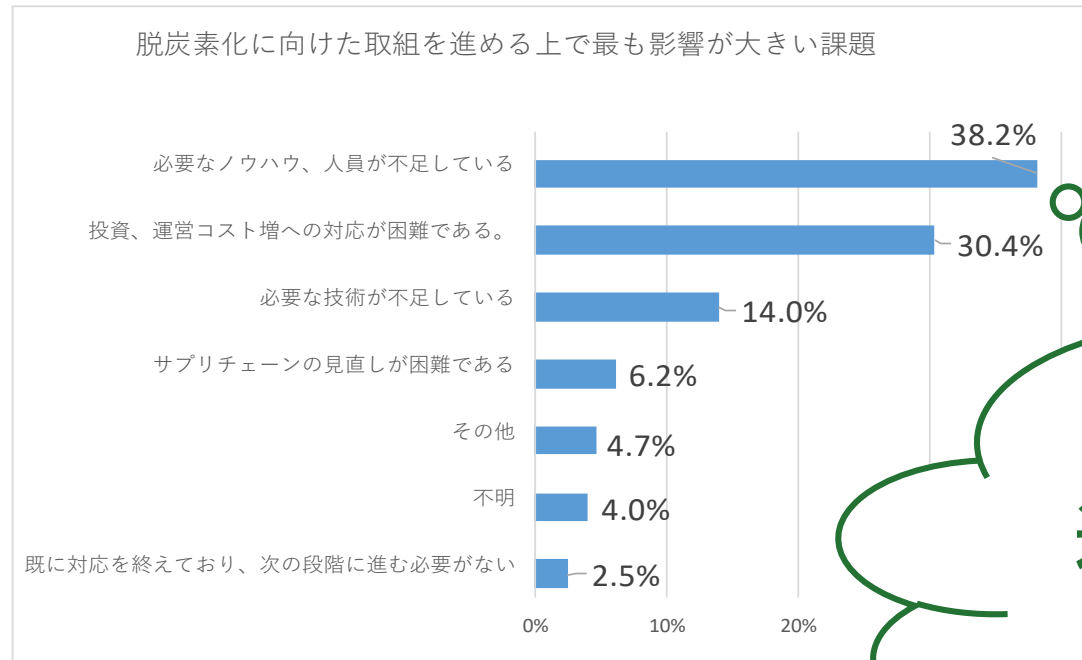
環境への好影響をもたらす
具体的なアドバイス
ができる人材を数多く輩出



中小企業のグリーンLを増加

提案の背景

図表7 脱炭素化を進める上での最大の課題



- ① 専門人材が大量に必要だが**不足**
→ 中小企業のグリーンファイナンスが十分に
広がらない要因
- ② グリーンファイナンスには従来の融資
業務にはない**専門能力が求められる**

実際に脱炭素化を
進めるうえでの**最大の課題は**
人材不足と出ている！！

(出所) 環境省(中央環境審議会 炭素中立型経済社会変革小委員会)「GXを支える地域・企業・市民の取組を促すための政策」(2023年10月) p.49より作成。

Green-FP資格の概要

- ① 受験資格は金融機関での法人融資経験が**3年以上**
または同一の事業会社で勤務経験**5年以上**
- ② 問題形式は**実技問題**が中心
- ③ 出題内容は
 - (A) **グリーンプロジェクトの計画作成**に関する問題
 - (B) **サステナブルファイナンスの実施**に関する問題
 - (C) **ファイナンス後のモニタリングの実施**に関する問題で構成
- ④ **7年間の有効期限**あり、更新試験に合格すれば更新が可能



Green-FP資格の特徴

どの企業に対してもGXの取り組みに合う
グリーンファイナンスの適切な融資判断を
下せる能力の有無を判定

→ **既存の資格試験には存在しない！**



メリット

① **スモールグリーン**
プロジェクトの増加

② **取引先企業の安心感**
と行員の自信向上

③ **件数増加への対応**

④ **専門人材の客観的**
把握と競争促進

⑤ **企業側の専門人材**
の育成

04

私たちの提案「Green-FP制度」

〈渉外担当職員数の現状〉

日本の銀行
合計支店数：13,336店
職員数：238,601人

このうち渉外担当職員
34.1%

銀行の渉外担当職員：81,363人
→1支店あたり6.1人

〈資格保有者の目標数と達成時期〉

難易度は**FP2級程度**

取得推奨で
3~4年

各支店の**渉外担当全員**
が取得可能

Green-FP制度の実現性

①各企業に合った具体的な
グリーンプrojジェクトの提案

②最適なファイナンス方法の
提案

これらをできる人材
が大量に必要！

十分なニーズがあり、なじみのある能力開発方法
であるため**実現性は高い！！**

05

Green-FP制度で目指す未来

05

Green-FP制度で目指す未来

Green-FP制度
開始

グリーンプロジェクト
の量と質が向上

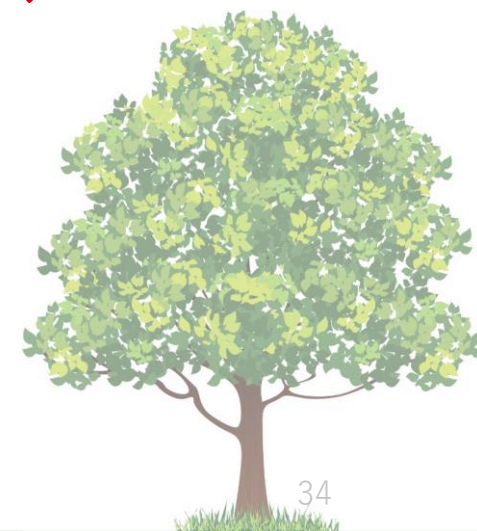
専門人材の増加

あらゆる企業の
GXへの取り組み促進

気候変動の抑制
そして
持続可能な社会へ

- ①金融機関に十分な体制が確立
- ②中小企業での小規模なグリーンL案件が増加

**Green-FP制度を引き金に
GXを強力に推進
そして気候変動を抑制していく
そんな未来を目指す。**



Thank you
for
Listening!



ご清聴ありがとうございました

ヒアリング調査にご協力いただきました関係者の皆様に御礼申し上げます。

参考図表①

〈グリーンローンとサステナビリティ・リンク・ローンの分類と融資額〉

		グリーン ローン	サステナビリ リンク・ローン
1.	再生可能エネルギーに関するもの	39 件	26 件
2.	省エネルギーに関するもの	12 件	99 件
3.	汚染の防止と管理に関するもの	4 件	39 件
4.	自然・土地利用の持続可能な管理に関するもの	0 件	15 件
5.	生物多様性保全に関するもの	0 件	0 件
6.	グリーンな運輸に関するもの	8 件	32 件
7.	持続可能な水資源管理に関するもの	0 件	1 件
8.	気候変動に対する適応に関するもの	1 件	9 件
9.	サーキュラーエコノミーに対応した製品、製造技術・プロセス、環境配慮製品に関するもの	1 件	17 件
10.	グリーンビルディングに関するもの	40 件	14 件
11.	1～10に該当しないもの	—	30 件
	合計数	105 件	282 件
	融資額の平均値	78.7 億円	17.1 億円
	融資額の中央値	10.8 億円	1.5 億円

89.4%

(注) グリーンローンでは1つの事例がいずれか1つの分類に該当するが、サステナビリティ・リンク・ローンではSPTsの設定が幅広い例もあるため、1つの事例が複数の分類に該当する場合がある。合計数は、分類された件数の合計。89.4%は、合計数282件に対する割合。

(出) 環境省「グリーンファイナンスポータル」に掲載されたグリーンローンおよびサステナビリティ・リンク・ローンの2023年1月～7月に掲載された全事例を、環境省の「グリーンローン及びサステナビリティ・リンク・ローンガイドライン（2022年版）」の別表の10分類のどれに当たるかを独自に分類した。

参考図表②

〈グリーンローン及びサステナビリティ・リンク・ローンの借入フロー〉

	通常の 借り入れ手続き		グリーンローン借入時の 追加手続き	サステナビリティ・リンク・ローン借 入時の追加手続き
借入準備	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画の検討 ・必要書類作成 	+	<ul style="list-style-type: none"> ・調達資金の充当対象プロジェクトの範囲を検討 ・グリーンプロジェクト評価・選定プロセスの検討 ・見込まれる環境改善効果の算定 ・調達資金の管理方法・レポーティング方法の検討 ・外部機関によるレビューの取得又は自己評価プロセスの策定・実施（必要に応じ） 	<ul style="list-style-type: none"> ・KPIの選定 ・SPTsの設定 ・SPTs達成状況に対するローンの特性の決定 ・外部機関によるレビューの取得又は内部の専門性の開示又は開発（必要に応じ） ・レポーティング方法の検討
金融機関 選定・審査	<ul style="list-style-type: none"> ・面談 ・審査書類提出 ・審査 		<ul style="list-style-type: none"> ・－ 	<ul style="list-style-type: none"> ・－
契約・実行	<ul style="list-style-type: none"> ・条件面決定、融資契約 ・融資実行 		<ul style="list-style-type: none"> ・－ 	<ul style="list-style-type: none"> ・－
資金管理	<ul style="list-style-type: none"> ・調達資金の管理 ・プロジェクト等への資金充当 		<ul style="list-style-type: none"> ・グリーンローンによる調達資金の追跡管理 	<ul style="list-style-type: none"> ・－
返済・ 情報開示	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト等の実施 ・適宜報告（モニタリ 		<ul style="list-style-type: none"> ・環境改善効果の算定・レポーティング ・外部機関によるレビューの取得又は自己評価プロセスの実施(必要に応じ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・SPTs達成状況の測定・レポーティング ・外部機関による検証の実施
借入償還	<ul style="list-style-type: none"> ・契約書に基づき償還 ・リファイナンス（必要に応じ） 		<ul style="list-style-type: none"> ・－ 	<ul style="list-style-type: none"> ・－

(出所) 環境省「グリーンボンド及びサステナビリティ・リンク・ボンドガイドライン グリーンローン及びサステナビリティ・リンク・ローンガイドライン」2022年版、p.72より作成。

参考図表③

〈Green-FP資格に類似する既存の資格〉

資格・検定名	方式	出題内容	有効期限
炭素会計アドバイザー資格	受験資格講習終了後申込みし、3級から1級それぞれの多肢選択式	(3級) ・脱炭素を巡る国内外の情勢 ・カーボンアカウンティングのサイクル ・国際ルールを重視したScope1, 2, 3算定の考え方	最新情報の定期的な講習やアップデートが必要なため「切り取り」ではなく、更新が必要な資格制度
		(2級) ・SBTの概要、要件等 ・FLAG、FLAG・SBTなど新たな概念 ・1次データ（組織・プロセス）を活用したScope1, 2, 3の計測 ・環境価値の利用方法、BVCMの概念	
		(1級) ・気候移行計画の概要 ・環境価値（グリーン、ブルーカーボン等）の創出 ・TNFD、SDGs等の新たな概念 ・CDP質問書を活用した情報開示 ・PAS2060などカーボンニュートラル認証	
サステナビリティ検定（SDGs・ESGベーシックとサステナビリティ・オフィサーの2種目）	・SDGs・ESGベーシック…三択一式40問 ・サステナビリティ・オフィサー…四択一式50問	・SDGs・ESGベーシック…SDGsとは、SDGsの関連知識、SDGs経営の実践やESG金融・投資の理解と実践 ・サステナビリティ・オフィサー…SDGs・ESG・サステナビリティの基礎知識、企業のサステナビリティ活動、サステナビリティと金融	なし
3R・低炭素会計社会検定	・マークシート方式で4択で解答。3R部門、低炭素社会部門各68問。	3R行動を実践・指導するために必要な知識・考察レベルを問う検定プログラム	なし
銀行業務検定試験	脱炭素アドバイザーとして求められる能力及び役割に応じて3類型に区分される	銀行・保険・証券等金融機関の行職員を対象に、業務の遂行に必要な実務知識や技能・応用力についてその習得程度を測定する	一度合格すれば、その種目の合格はずっと生涯有効

（出所）上記の各資格の公式ウェブサイトより作成。

参考文献

- ・一般社団法人金融財政事情研究会「サステナビリティ検定」
<https://www.kinzai.or.jp/kentei/sus/index.html> (2023年9月18日閲覧)
- ・一般社団法人持続可能環境センター(3R・低炭素社会検定 検定事務センター)「3R・低炭素社会検定」
<https://www.3r-teitanso.jp/> (2023年9月18日閲覧)
- ・江守正多「より精緻な科学的知見を提供－IPCC第1作業部会第6次評価報告書概要－」国立環境研究所 地球環境研究センターニュース2021年11月号(Vol.32 No.8、通巻372号)
<https://cger.nies.go.jp/cgernews/202111/372001.html> (2023年9月18日閲覧)
- ・環境省「グリーンファイナンスポータル」
<https://greenfinanceportal.env.go.jp/loan/overview/about.html> (2023年9月18日閲覧)
- ・環境省「グリーンボンド及びサステナビリティ・リンク・ボンドガイドライン・グリーンローン及びサステナビリティ・リンク・ローンガイドライン2022年版」
<https://www.env.go.jp/content/000062348.pdf> (2023年9月18日閲覧)
- ・環境省「脱炭素ポータル」
https://ondankataisaku.env.go.jp/carbon_neutral/topics/20230209-topic-41.html
(2023年9月18日閲覧)

参考文献

- ・ 環境省 「ポジティブインパクトファイナンスの基本的考え方 骨子案の論点整理」
<https://www.env.go.jp/content/900515468.pdf> (2023年9月19日閲覧)
- ・ 環境省 大臣官房 環境経済課 環境金融推進室 「グリーンファイナンス関連施策の方向性について」
2022年11月21日
https://www.meti.go.jp/shingikai/energy_environment/industry_gx/pdf/004_04_00.pdf
(2023年9月18日閲覧)
- ・ 環境省 (中央環境審議会 炭素中立型経済社会変革小委員会) 「GXを支える地域・くらしの脱炭素～今後10年を見据えた取組の方向性について～」 2022年12月20日
https://www.env.go.jp/council/content/i_05/000096596.pdf (2023年9月18日閲覧)
- ・ 金融庁 「金融仲介機能の発揮に向けたプログレスレポート」 令和4年6月
<https://www.fas.go.jp/news/r3/ginkou/20220630-4/01.pdf> (2023年9月23日閲覧)
- ・ 銀行業務検定協会 「銀行業務検定試験」
<https://www.kenteishiken.gr.jp/guidelines.html> (2023年9月18日閲覧)
- ・ 国連広報センター 「緊急の気候行動により、すべての人々が住み続けられる未来を (2023年3月20日付 IPCC プレスリリース・日本語訳)」 プレスリリース 23-014-J 2023年3月23日
https://www.unic.or.jp/news_press/info/47690/ (2023年9月18日閲覧)

参考文献

- ・ 全国地球温暖化防止活動推進センター「4-04 日本の部門別二酸化炭素排出量（2021年度）」
<https://www.jccca.org/download/65477>（2023年9月18日閲覧）
- ・ 全国銀行協会「全国銀行資本金、店舗数、銀行代理業者数、役職員数一覧表」
<https://www.zenginkyo.or.jp/stats/year2-02/account2022-terminal/>（2023年9月23日閲覧）
- ・ 総務省統計局「令和3年経済センサス-活動調査」<https://www.stat.go.jp/data/e-census/2021/index.html>（2023年9月23日閲覧）
- ・ 炭素会計アドバイザー協会「炭素会計アドバイザー資格」
<https://www.caaai.or.jp/licence/index.html>（2023年9月18日閲覧）
- ・ 物江陽子「グリーンファイナンスとは～増大する資金需要と多様化する資金調達手段～」大和総研レポート・コラム、2017年3月3日
https://www.dir.co.jp/report/research/introduction/financial/esg-greenfinance/20170303_011786.pdf（2023年9月18日閲覧）
- ・ G20 Green Finance Study Group, G20 Green Finance Synthesis Report, 5, September 2016,
https://unepinquiry.org/wpcontent/uploads/2016/09/Synthesis_Report_Full_EN.pdf
（2023年9月18日閲覧）